

# 教頭会会報

宮崎県公立小中学校教頭会

第145号 2023

令和5年11月30日発行



## 〈 表 紙 〉

### 【写真左上】 東児湯支会 川南町「峠の里」から眺められる児湯の風景

川南町を走る東九州高速道路の川南パーキングエリア「PLATZ(ぶらっつ)」をさらに2kmほど北上したところの山手側に「峠の里」という景色の素晴らしいお食事処を兼ねたお茶屋さんがあります。そこには、展望所があり、東児湯のほとんどの町、遠くはシーガイアまで見渡すことができます。東児湯は、宮崎県の中央にあり、農業や水産業など、様々な産業が盛んな地域です。そこに人々が集い、多くの学校があります。将来を担う子どもたちが、この広々とした大地のように、豊かでたくましい大人へと成長し、社会で活躍できる存在になれるよう東児湯の各小中学校で毎日熱心に教育活動が行われています。

### 【写真右上】 東諸支会 「綾小学校の「鐘楼堂」(綾町)」

綾小学校は小高い丘の上にあり、かつては「綾光寺(りょうこうじ)」という寺院がありました。寺の釣り鐘は戦時中、国に供出されましたが、鐘の音を聞いて育った町民からの要望もあり、同校の創立100周年記念事業で建立されました。毎朝、6年生が交代で、重さ330貫(約1.237トン)の梵鐘をつくのが慣例となっています。「いいこと百回がんばった百周年のおいおいに鐘つき堂ができました 朝日きらめく照葉の里にきょうもゴーンがひびきます すばらしい日にしようと鳴ってます」

### 【写真左下】 宮崎市支会「大根やぐら」

鰐塚山系から吹く冷たい西風「鰐塚おろし」が吹き始める11月になると、田野町から清武町に広がる広大な台地に、高さ6～8m、長さ90mにも及ぶ巨大な「大根やぐら」が出現します。この「大根やぐら」は、冬場の寒風と雨の少なさに加え、氷点下にならない絶好の気象条件と、大根を丸ごと一本干す伝統的な「干し野菜」が織りなす地域特有の景観です。農業にまつわる伝統文化として令和3年2月には日本農業遺産にも認定されました。近年では「大根やぐら」を使ったイベントが色々と催されていますので、皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。

### 【写真右下】 西都地区支会 「都於郡城址まつり」

1997年に『都小っ子学校と地域が一体となった祭り(とのっこまつり)』と『伊藤家歴代種主従の慰霊と供養のために開催されていた都於郡城址顕彰会の「高屋山陵祭」』を1つにして始められたそうです。2001年の第5回からは学校と地域が一体となったまつりとして西都市の4大まつりとなりました。会場の都於郡城址は国指定の史跡となっております。また、今年5月にNHK総合で放送された日本最強の城スペシャル第14弾において、『日本最強の城』に選ばれ、内外で注目が集まっています。

# あ い さ つ

宮崎県公立小中学校教頭会

副会長 矢野 学

秋の美しい季節になりました。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、学校運営の推進役として、日々ご尽力なされていることと存じ上げます。

この時期は、体育的な行事や文化的な行事が校外外で開催され、児童生徒の素晴らしい活動やご指導の効果を感じられることも多いかと思えます。コロナ禍を乗り越えた3年間を振り返ると、大変喜ばしい気持ちになります。

令和5年8月3日(木)～4日(金)には、ハイブリッド方式による第65回全国公立学校教頭会研究大会が石川県で開催され、各支会から11名の先生方に参集型での参加をしていただきました。また、オンライン型でも、各支会から多数の先生方に参加していただき、全国各地の教頭が顔を突き合わせ、研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」：副題～ふるさとに誇りをもち 未来を切り拓く心豊かな人づくりを目指すこれからの学校運営の推進～に基づく諸課題について、貴重な情報交換ができました。私自身もオンラインで参加しましたが、「教育課程に関する課題」について他県の先生方と意見を交わすことを通して、どの学校においても、学校や地域の実情・課題に応じた工夫をしながら、教頭が熱意をもって学校運営に取り組んでいることを改めて実感することができました。

令和5年8月17日(木)～18日(金)には、第63回九州地区公立学校教頭会研究大会沖縄大会が沖縄県で開催され、宮崎支会・西都支会から各4名、他の支会から各1名、県の役員から3名の参加をしていただきました。宮崎支会は「教員の専門性に関する課題」、西都支会は「子どもの発達に関する課題」についての提言発表でした。発表者の先生方や、担当支会の皆様におかれましては、様々なご苦勞があったことと思えます。日頃の実践に基づいた素晴らしい提言発表を、九州各県の教頭先生方へ向けて発信していただくことができました。厚く御礼申し上げます。今後も、各支会・学校においての実践が積み重ねられ、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」につながっていけば幸いに思えます。

11月には、令和6年度第64回宮崎地区公立学校教頭会研究大会宮崎大会の第3回目の実行委員会が開催されます。大会本部・総務部・研究部・運営部・会計部を組織し、教頭会事務局と連携しながら準備を進めているところです。宮崎・都城・延岡・南那珂・東臼杵・東児湯の6支会には、九州大会での提言発表をしていただくことになっています。すでに、次年度の発表に向けた準備が進行中のことと思えます。学校や地域・本県の課題について協議を重ね、実践に基づいた研究の成果が発表されることを期待しています。

さて、宮崎支会は9月の研修会において、宮崎市教委委員会とタイアップし、講師に鳴門教育大学教職大学院：久我 直人 教授をお招きし、「『学校組織マネジメント』—令和の日本型学校づくりと働き方改革—」という演題でご講話をしていただきました。学校における働き方改革の必要性や方向性を理解し、教職員の働きやすさや、学校の生産性を向上させることが目的でした。講話の中では、「働き方改革の本質は生産性の向上であり『効果のある学校づくり』である」、「自校の子どもの教育課題に適した『効果のある指導』を設定し、組織的に展開することが重要だ」との認識から、様々な事例・実践をご紹介していただきました。学校運営に関わる様々な課題が山積していますが、子どもの教育課題に適した効果のある指導に学校が組織として取り組むことで、子どもが変容し、教師の指導の質的な変容を促し、ひいては働き方改革につながっていくというお考えは、大変参考になりました。今回の研修が、各校での働き方改革に生かされることを願っています。

私自身は、忙しさに天井を見上げたため息を吐いたり、生徒指導や特別支援に関わる児童生徒等の度重なる案件に「悩ましいなあ。」とぼやいたりする毎日であります。教頭が元気で前向きに仕事に取り組む姿を率先して見せていきたいと常々考えています。そのためには、自身の健康管理が大切だとも思っています。会員の皆様におかれましては、ご自身の健康やご家族の幸福をまずは大事にしてください。

最後になりますが、本会報誌にご寄稿いただきました会員の皆様、並びに、編集に携わっていただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、会員の皆様のますますのご健勝・ご活躍を祈念いたします。

# 支会だより

## 宮崎市支会

### 1 構成

本支会は、宮崎市内の小中学校74校（小学校48校、中学校26校）の教頭で構成されている。

### 2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	矢 野 学	宮 崎 小 学 校
副 会 長	上 森 義 郎	宮 崎 南 小 学 校
副 会 長	長 峰 聖 治	宮 崎 中 学 校
総 務（ 会 計 ）	角 田 知 一	加 納 小 学 校
研 究 部 長	福 山 憲 昭	櫛 北 小 学 校
研 究 副 部 長	福 留 隆 二	江 南 小 学 校
法 制 調 査 部 長	須 本 康 二	小 戸 小 学 校
法 制 調 査 副 部 長	宮 永 恵 吾	高 岡 中 学 校
広 報 部 長	植 村 裕 子	大 久 保 小 学 校
監 事	坂 本 敏 哉	学 園 木 花 台 小 学 校
監 事	宮 越 勝 志	生 目 台 中 学 校

### 3 研究の概要

#### (1) 研究・研修の基本目標

- ① 教育理念に基づく学校教育の実現
- ② 教頭としての力量の向上
- ③ 学校の社会的役割の推進

#### (2) 研究の基本方針

- ① 学校教育の課題の解決に努める。
- ② 教頭の職務内容や職務機能を追究する。
- ③ 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす。

#### (3) 班別研修内容

班	R 5 年度研究内容	R 6 年度研究内容
1	教育環境整備に関する課題 【県大会紙上発表（ホームページ掲載）】	
3	教育課程に関する課題	教育課程に関する課題 （九州大会提言）

4	組織・運営に関する課題 【県大会提言（ホームページ掲載）】	
6	教職員の専門性に関する課題	教職員の専門性に関する課題 (九州大会提言)
7	教育課程に関する課題 【県大会紙上（ホームページ掲載）】	
9	子どもの発達に関する課題 【県大会提言（ホームページ掲載）】	
10	教職員の専門性に関する課題 【九州大会提言】	

※2班、5班、8班については、各班の課題に沿って研究を進める。

#### 4 教頭会年間研修計画

期 日	研 修 内 容	研修会場
5月22日(月)	役員会	
6月29日(木)	第1回研修会 ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
7月6日(木)	教育問題セミナー1 ・宮崎市教育委員会 教育長講話 ・宮崎市教育委員会 学校教育課長講話	県武道館
7月12日(水)	教育問題セミナー2 ・宮崎市中学校校長会 会長講話 ・宮崎市小学校校長会 会長講話	県武道館
8月2日(水)	第2回研修会 ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
9月6日(水)	第3回研修会 ・教育講演会 講師 鳴門教育大学教職大学院教授 久我直人氏 「学校組織マネジメント」 —令和の日本型学校づくりと働き方改革— ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
11月17日(金)	第4回研修会 ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
1月19日(金)	第5回研修会 ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
2月20日(火)	第6回研修会 ・全体会、班別研修会、情報交換会	清武文化会館
3月27日(水)	役員会	

# 支会だより

## 東 諸 県 支 会

### 1 構 成

東諸県支会は、国富町7校（本庄小、木脇小、森永小、八代小、本庄中、木脇中、八代中）と綾町2校（綾小、綾中）の2町9校の教頭により構成されている。

### 2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	黒 木 博	国富町立八代小学校
副 会 長	近 藤 洋	国富町立本庄小学校
副 会 長	鶴 丸 夕 子	国富町立八代中学校
総 務	岩 切 里 栄 子	国富町立木脇中学校
会 計	芳 野 純 子	国富町立木脇小学校
研 究 部 長	福 嶋 芳 人	国富町立森永小学校
法 制 調 査 部 長	古 澤 慎 一 郎	国富町立本庄中学校
広 報 部 長	佐 土 原 千 砂	綾 町 立 綾 小 学 校
厚 生 部 長	井 上 透	綾 町 立 綾 中 学 校

### 3 研修の概要（1B「教育課程に関する課題」）中間発表としてHP掲載

東諸県支会は、研究主題を「社会に開かれた学校づくりを目指す教育課程の在り方」として、本年度は経過発表と位置づけ宮崎県教頭会のホームページに掲載します。また、次年度は2年目の最終発表として九州大会宮崎大会においてホームページ掲載をします。

これからの学校教育は、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携しながら、児童、生徒にこれからの時代に必要な資質・能力を育むことが望まれています。そこで、本支会では、教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用し、学校の目指すところを社会と共有しながら「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて連携を推進することが責務であると考え、本主題を設定しました。

本支会は国富町と綾町の小学校5校、中学校4校の計9校で構成されており、各学校で地域の人的・物的資源を活用し、連携を推進することをとおして、仮説の検証、考察を行っていくものであります。

研究の視点として、以下の2点が挙げられます。

まず、各学校の実態に応じて「地域の人的・物的資源を活用し、連携を推進する」ことを実践し、有効な教育課程の在り方を考察するという点です。

また、「教頭としての関わり方」はどうあればよいかという点です。

本研究が、各学校において今後の学校づくりに役立つことを願いつつ、少しずつではありますが、しっかりとした一歩を踏み出したいと思っています。

#### 4 郡教頭会研修経過及び計画

回	期 日	研 修 内 容	研修会場
1	5月25日	第1回支会教頭会 ・木脇小校長講話 ・役割分担・年間計画 ・代議員会報告 ・主題研究	木脇小学校
2	6月22日	第1回 学校経営（法規等）セミナー 講師：本庄小学校 脇山辰己校長	本庄小学校
3	6月29日	第2回 学校経営（法規等）セミナー 講師：田原 健二 元宮崎市教育長	木脇小学校
4	7月 6日	第3回 学校経営（法規等）セミナー 講師：田原 健二 元宮崎市教育長	木脇小学校
5	7月11日	第2回支会教頭会 ・綾中校長講話 ・県専門部会報告 ・主題研究	綾中学校
6	8月3日 ～4日	第65回全国公立学校教頭会研究大会（ハイブリット型）	石川県
7	8月17日 ～18日	第63回九州地区公立学校教頭会研究大会沖縄大会（参集型）	沖縄県
8	10月23日	第3回支会教頭会 ・綾町教育長講話 ・主題研究 ・PTA関係 ・情報交換	綾町公民館
9	12月上旬	第4回支会教頭会 ・本庄小校長講話 ・主題研究 ・PTA関係 ・情報交換	本庄小学校
10	2月中旬	第5回支会教頭会 ・木脇中校長講話 ・主題研究 ・PTA関係 ・情報交換	木脇中学校

# 支会だより

## 西都地区支会

### 1 構成

本支会は、西都市及び西米良村（小学校1校、中学校1校）の教頭で構成されている。西都市は小学校8校、中学校6校である。現在、小学校5校、中学校3校、小中一貫校3校という構成である。

### 2 支会役員

会 長	太田 誠治（穂北中）	法制調査部	井野奈津子（三財小）
副 会 長	勢井 利彦（三財中）	法制調査部	井上成二郎（妻 中）
副 会 長	松尾 洋介（都於郡小）	広報部	安影 亜紀（銀上小）
総 務	山許 亜紀（三納小）	広報部	澤村美智子（都於郡中）
会 計	南 真紀子（妻北小）	厚生部	横山 一憲（茶臼原小）
会 計	河野 哲志（三納中）	厚生部	古賀 潤一（妻南小）
研 究 部	畑田 史人（穂北小）	西米良	岩本 喜樹（西米良中）
研 究 部	小出 純（銀鏡中）	西米良	馬場 義和（村所小）

### 3 研究概要

#### (1) 研究主題

【小学校】「児童の特性に応じた適切な学びの保障～教職員への助言や支援及び関係機との連携を通して～」

【中学校】「西都市中学校再編に向けて～中学校統合に向けての見通し～」

#### (2) 研究目標

- ① 市教育委員会や校長会の指導のもとに、学校運営上の諸問題及び教育的課題解決に向けた研究と実践を行う。
- ② 情報交換や研修課題を通して、教頭としての資質向上に努め、学校教育の充実と発展に寄与する。
- ③ 教頭間及び小中間の連携を図り、小中一貫教育を進める。

#### (3) 研究内容

- ① 当面する学校運営上の諸問題に関わる情報交換及び協議
- ② 課題解決を目指す研究と実践
- ③ 服務研修に関わる法制研修

#### 4 主な事業計画予定

月	事業名	内容
5月24日(水)	第1回教頭会研修会	役員決定・役割分担 西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
6月22日(木)	第2回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
8月 3日(木) 4日(金)	全国研究大会(石川)	
8月17日(木) 18日(金)	九州地区研究大会(沖縄)	
10月18日(水)	第3回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修) 特別支援教育研修
11月29日(水)	第4回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
1月24日(水)	第5回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
2月28日(水)	第6回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修) 西都市で実施
	(西米良村合同研修会) どこかで実施予定	

#### 5 研究の実際

##### ① 部会別研修会

全体研修後、小中学校ごとに分かれ、課題研究の研修や各学校における教育課題の解決について情報交換を行う。

##### ② 中学校区での小中合同研修会

中学校区内の小中連携に関する情報交換や問題点について協議を行う。

# 支会だより

## 東 児 湯 支 会

### 1 構 成

本支会は、東児湯（小学校13、中学校8、義務教育学校1）内の5町23名の教頭により構成されている。

### 2 支会役員

会 長	田爪 賢志（上新田中）	研 究 部 長	長友 智子（新田中）
副 会 長	黒木 賢二（都農南小）	広 報 部 長	三角 勝広（山本小）
会 計	米原 浩司（高鍋東中）		

### 3 本会の目的

東児湯地区の各小中学校における学校運営及び教頭としての成果や課題等についての共有を図るため、相互に情報交換を行うことにより、教頭としての更なる資質向上に努めるとともに、東児湯地域や各小中学校の教育力の向上に資する。

### 4 本年度の研修について

#### (1)研修のねらい

○本支会の構成員である東児湯小中学校各校の教頭としての更なる資質向上に努めるとともに各校の教育的課題の解決に取り組むなど、「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の具現化に向け、日々の教育実践の充実を図る。

#### (2)実施上の留意点

○前年度の反省から、本年度は紙面報告や紙面発表の他、オンライン等も積極的に活用して研修を実施する。

#### (3)本支部における本年度の具体的な研修内容

##### ① 新田中学校

・テーマ「教職員の専門性に関する課題」（本年度県教頭会ホームページに掲載予定）

##### ② 高鍋東中学校

・テーマ「連携協働を考えたこれからのPTA活動の在り方」（12月県PTA研究大会において発表予定）

## 5 主な事業計画（予定）

期 日	研修会・役員会	内 容
5月	第1回役員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画案</li> <li>・各種連絡事項確認</li> </ul>
6月	第1回研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究校の決定</li> </ul>
7月	各地区夏季研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区で計画・実施</li> </ul>
8月	全国公立学校教頭会研究大会 (石川大会) 九州地区公立学校教頭会研究 大会 (沖縄大会)	
9月	第2回役員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の研修計画</li> </ul>
10月	第2回研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校研究状況の進捗状況確認及び協議</li> </ul>
11月	第3回役員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教頭会に向けて</li> </ul>
12月	県教頭会 研究大会	
1月	第3回研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ</li> </ul>
3月	第4回役員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間反省・引継等</li> </ul>

# 各支会新任副校長・教頭 随想

## 「一期一会」

宮崎市立内海小学校 古木吉広

「教頭先生」と呼ばれて背筋が伸びた教頭初日から半年が過ぎた。振り返ると、あっという間に過ぎた半年だった。本校では、1学期後半から3・4年の学級担任を兼務しており、朝、学級に入ると7名の子ども達が笑顔で迎えてくれる。その笑顔にどれだけ心が安らいだことか。全校児童が19名で、保護者との距離も近い。参観率や懇談率などほぼ100%であり、感謝の気持ちでいっぱいである。私自身が学級通信や学級懇談会で保護者との距離を身近に感じることができるのもありがたい。朝は、見守り隊の方々と一緒に子ども達の登校の様子を見守ることから始まるが、地域とのつながりを感じる貴重な時間になっている。

「一期一会」。本校でのたくさんの方々との出会いを大切に、より信頼される学校づくり、地域から愛される学校づくりに貢献していきたい。

笑顔がキラリ！内海小

## 「無知の知」

宮崎市立住吉小学校 山元美保子

「これまでの経験を生かして、残りの教職生活は次の先生方の力になりたい。」そう思ってスタートした令和5年度。昨年度は教務主任として教頭先生の横で仕事をし、その机上にある多くの締切りの書かれた文書を見ながら「教頭は激務」との覚悟をもって仕事に臨んだつもりであった。

驚いたのは、想像を超えた書類の量や様々な対応の数々。採用試験時に「教頭を目線で物事を考えるように」していたつもりであったが、全くと言っていいほど考えが及んでいなかったことを痛感した。学年主任や教務主任として先生方を支援してきたつもりであったが、自分がどれだけ管理職や事務室、教育委員会の先生方に支えていただいていたか、それを知った上半期であった。

私の考えの及ばない仕事をされているであろう校長先生を助け、校務を整理できる教頭に成長できるよう努めていきたい。

みんな仲良く 元気に学ぶ 明るい学びや 住吉小学校

## 「働き方改革」

宮崎市立生目南中学校 神崎雅博

「教員不足」、「教員負担増」などといった言葉が日常に溢れ、働き方改革の推進が尚一層重要になってきました。本校ではこの夏休みに、「自分たちができることは何か」というテーマで研修を行い、これまで行ってきた朝自習を廃止し、昼休みを分割することで、勤務時間終了の1時間前に帰りの会を終わらせることを決定しました。しかし、どんなに校時程の工夫や業務の精選を行っても、結局教員一人ひとりの意識が変わらなければ、働き方改革は進みません。つまり、働き方改善です。一人ひとりが時間を意識して働き、重要度と緊急度のバランスを図りながら、仕事に向き合う。そうして生まれた貴重な時間をどう使っていくかが大切です。それは、ぜひ、目の前の生徒にかえていく使い方であってほしいと思います。おすすめの使い方は、少しでも早く帰って、心身ともリフレッシュすることです。私が見たい生目南中学校の先生たちの姿は、いつも疲れ切っている姿ではなく、元気を生徒に与える姿です。夏休み明けの姿が楽しみです。

職員室がとっても広くて快適です。きっと宮崎県No.1です。

## 「地域とともに」

宮崎市立生目台中学校 宮越勝志

新任教頭として赴任し、7か月が過ぎました。慌ただしく時間に追われた4月。しかめっ面でパソコンに向かい、独り言を言いながら文書作成に追われていました。今では、ようやく学校や環境にも慣れ、心に少し余裕をもって過ごすことができるようになりました。最近、ある先生から「表情が穏やかになりましたね」と言われたほどです。現在は、「楽しい職員室」を目指し、日々頑張っています。

さて、生目台中学校は、探究の時間を設定し、ソーシャル・スキル・トレーニングに取り組むなど社会性を育む教育に尽力している学校です。また、地域と結びつきが強く、地域学校共同活動では、「子どもが主役のまちづくり」を目指し、生徒たちは、地域の活動に積極的に取り組んでいます。さらに、地域の意向で、令和8年度には、宮崎市初の小中一貫校になることも決定し、地域ともに学校づくりをしていくこととなります。学校から生目台地区を盛り上げていけるように、頑張りたいと思っています。

チャレンジ精神をもって、世界へ羽ばたく知性のある台中生!!

## 「『もりりん』のように」

綾町立綾中学校 井上透

綾町は日本最大級の規模を誇る照葉樹林帯があり、マスコットキャラクター『もりりん』の名前から分かるように大変自然豊かな町です。そんな中にある本校はユネスコスクールに指定され、日々の活動の中でSDGsを意識した取組を実践しています。他にも綾町ならではのオーガニック給食の取組の中で、生産者の方が心を込めて育てた安心、安全な食材が毎日生徒のもとに届くなど地域全体が学校の応援団として様々な活動に参画してくださっています。このような恵まれた環境の中でのびのびと育つ生徒の笑顔やそれを支える先生方のチームワークの良さに私自身がいつも大きなエネルギーをもらっています。新任教頭としてまだまだ未熟で、日々勉強することが多々ありますが、校長先生をはじめ支えてくださる多くの方々のためにも、マスコットキャラクター『もりりん』のように町民から愛される学校づくりのために自分らしくがんばっていきたいと思います。

ふるさと綾を愛し 心豊かでたくましく 自立心あふれる チーム綾中

## 「人材育成のバトン」

日南市立榎原小学校 平屋智徳

新任教頭として半年が過ぎました。多くの課題に直面する中で難しさを感じてきたことの一つに、先生方との関わり方があります。特に、指示・指導すべき時は、その時々で熟慮を要することが多く、思い悩みます。このような時は、自分自身がどのような指導を受けていたのかと思い出し、参考にすることがあります。そこで気付かされたのは、熟慮されて言葉を選び、タイミングを考え、辛抱強く語りかけてくれた諸先輩方の姿です。今の立場になり、どのような思いで私に接して下さっていたのかよく分かりました。そして、これからは君の番だよ、とバトンを託されたような思いがしたところでした。先日、私の初任者時代の指導教官であった先生が亡くなられたとの報を受けました。悲しみと同時に、受け継いだ知識や教育者としての思いを次世代の指導者たちにつないでいかなければならない、という使命感を感じました。これからは私の番です。諸先輩方から託された育成のバトンを次世代につないでいくために、先生方と協働しながら人材育成の一助となれるよう日々力を尽くそうと思います。

日に日に進む 日に日に香る 日に日に伸びる 「日々新（ひびあらた）学校」

## 「新任教頭として」

串間市立秋山小学校 大久保規子

秋山小学校は、串間市の北部にあり、児童数5名、職員数7名の極小規模校です。最盛期は全校児童数が180名ほどの時期もありました。現在は5年生が最上級生として秋山小学校を盛り上げています。私は、ありがたいことに本校の教諭から自校昇任という形で教頭になりました。本校勤務が3年目ということもあり、環境としては、かなり恵まれてはいましたが、初めての教頭職ということもあり戸惑うことばかりの毎日でした。しかし、校長先生や前任の教頭先生に相談し助けていただきながら何とか対応しています。現在は、校長先生、先生方や保護者、地域の皆さまの優しい言葉に元気をもらいながらがんばっています。これからも「子どもにとって楽しい学校」になるように教頭業務に努め、保護者や地域に信頼される学校づくりに尽力していきます。

豊かな心で正しく判断し行動できるたくましい体をもった秋山っ子

## 「元気に、笑顔で」

日南市立細田中学校 鳥居慎治

4月に新任教頭として本校に赴任して、早いもので半年が過ぎました。まだまだ勉強の毎日ですが、校長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様、地域の方々のお力添えのおかげで、充実した時間を過ごすことができています。

昨年度末、教頭への昇任に際し、多くの方から激励の言葉をいただきました。その中に「校長が替われば学校が変わる、とよく言うが、教頭が替われば、学校の職員の雰囲気が変わる」という言葉がありました。今、自分の理想の教頭像を思い描くとき、よくこの言葉を頭に思い浮かべます。せっかく変えられるのなら、いい変化を与えられる教頭でありたい。私のモットーは「元気に、笑顔で」です。先生方に元気に笑顔で毎日を過ごしてもらうために、私自身も自分を磨きつつ、まずは「元気に笑顔で」頑張っていきたいと考えています。

未来を生き抜く力を、今、細田で身に付けよう

## 「パワフル教頭」

西都市立都於郡中学校 澤村美智子

28年間の教員生活の中で、ほとんどが学級担任、部活動顧問をやってきた私ですが、4月からは教頭職。色々なことが初めてで、一つ一つの仕事に時間ばかりかかり、こんなことではいけないと思いました。考えることも大事ですが、周りに聞いて教わることも大事な事だと思い、校長先生や教育委員会、本校の先生方、地域の方、生徒や保護者に助けてもらいながら、多くの事に挑戦しています。特に、初めて「技術」の授業を受け持つことになり、教材研究が大変ですが、全校生徒51名と授業を通して関わることがとてもうれしいです。これまで以上にコミュニケーションを大切にし、生徒たちに寄り添い、背中を押してあげようと思います。また私自身、何事にも全力で取り組み、パワフル教頭を目指して頑張ります。そして、自分も生徒も磨き上げて自分色に輝きたいと思います。

教育目標 「人を生かし 自己を生かし 健やかに生きる」

## 「上新田ファミリーの一員として」

新富町立上新田小学校 大村知子

上新田小学校は「学びの丘 上新田学園」として、上新田中学校と小中一貫教育を行っています。近くには座論梅や新田原古墳群があり、自然豊かな地域です。小学校の勤務経験のみの自分にとっては、中学校の先生方と一緒に仕事をする環境がとても新鮮であり、新たに多くのことを学んでいます。教頭1年目として自分に何ができるのかを模索しながら、教頭としての業務をこなすことに精一杯の日々でしたが、校長や中学部の教頭、職員、地域の方々に支えられ、やりがいを感じている毎日です。自分が教頭になるにあたって、尊敬する先輩から送られた言葉「学校にとって、なくてはならない人になろう」「心配り、目配り、心配り」を胸に尽力しています。これまでに自分が培ってきた力を発揮しながら、学校と家庭、地域の三つの輪をつなぐ役目として、初心を忘れず常に謙虚でいたいと思っています。上新田ファミリーの一員としてさらに精進していきます。

協和・向上 ★ミガク カガヤク 上学★

## 「西岳の地で」

都城市立西岳小学校 日高昭徳

新任教頭として西岳小に赴任して、早半年が過ぎました。校庭の先には、赤池溪谷があり、朝夕の静かな時間帯には川のせせらぎが聞こえてきます。自然に恵まれ、そして何より元気な児童に囲まれての毎日は、自身にとってすばらしい日々となっています。これまでの約半年の期間は、振り返る暇もないほど、あっという間の日々でした。田植えや西岳太鼓の演奏披露や、小中合同のスポーツフェスタ、稲刈りそして地域の行事への参加と、これまでの立場と変わり「教頭」として連絡・調整の仕事を中心に行ってきました。学校の顔役と言うこともありミスのないように慎重になることも多くありました。このように「教頭」という仕事は、苦労も多いですが、その分多くの方々とのつながりができ、やりがいもあります。この西岳の地で地域の方々が「教頭先生」と言えば、私の顔と名前を思い浮かべてもらえるよう、これからの毎日も笑顔で頑張っていきたいと思います。

知恵いっぱい 笑顔いっぱい やる気いっぱい 西岳っ子！

## 「持続可能な働き方を心がける」

都城市立江平小学校 外山 繁

本校は、職員駐車場の入り口を通過すると、高さ3m程のオブジェが視界に入る。初めて本校に来校したときは、「このオブジェは一体何だろう？」と思いながら、謎が解けないまま今年4月に都城市立江平小学校の教頭として赴任した。教諭の頃とは異なる職務内容だが、校長先生や同僚、そして子どもたちや保護者の方々の理解と協力を得ながら、今日を笑顔で迎えることができていることは大変ありがたい。教頭として、校長先生の掲げる学校経営ビジョンの中の「挨拶日本一」と「楽しい学校」を実現するために凡事徹底を意識している。また、今年度は150周年記念式典を成功させるため、保護者、地域の方々との連携を図っている。冒頭に述べた謎のオブジェは、「進ちゃん像」と呼ばれる本校のシンボルであった。60年以上前に建設され、長きにわたり江平っ子を見守ってきた。歴史あるこの江平小で地域、保護者と協働し、子どもたちのために尽力していきたい。

彼岸花が咲き誇る9月後半は、県内でも有数のフラワースポット！

## 「再び、スタートラインへ」

三股町立宮村小学校 岡崎 貴子

人材育成力、外部折衝力、管理運営力……。これまで、意識してこなかった様々な力が求められる職。特別支援学校、小学校、幼稚園と3校種を経験し、子どもたちのそれぞれの発達段階での育ちにかかわってきたこれまでの自分に、何ができるのだろうか、と、自問自答しながら過ごしてきた8ヶ月。「誰かの役に立ちたい」「いろいろな人と出会いたい」「新しいことを学びたい」「幼保小の接続を考えていきたい」。これって、管理職として必要なことでは……。そう思うと、気持ちが前向きになっていく。

最初の小学校での赴任地が三股町。久しぶりに見る変わらぬ三股の風景。再び、スタートラインにたった。立場は違えども、これからもみまたん子の健やかな育ちを先生方、保護者、地域の方と一緒に支えていきたいと思う。

児童には自信を 職員にはやりがいを 保護者からは信頼

## 「Withの精神」

都城市立白雲小・中学校 中谷 義治

本校は、児童自立支援施設「県立みやざき学園」の施設内学校として平成26年度に開校し、今年度、開校10年目の節目の年を迎えました。

本校・学園の基本的理念に「Withの精神～子どもとともにある職員～」があります。様々な課題を抱えた本校の子どもたちですが、授業はもちろん、多くの体験活動や部活動、寮生活を通して学校・学園職員との人間的な触れ合いを深め、信頼関係を築きながら、将来、社会の中で自立して生きていけるよう必要な資質を育てています。

校長の「チームで、子ども一人一人を大切に教育」という経営ビジョンの下、子どもたちの自己肯定感を高めながら、1日でも早く原籍校への復学ができるよう、県立みやざき学園と連携し、「自立」と「貢献」をキーワードに新たな白雲小・中学校を創りあげていきたいです。

「教育」と「福祉」の融合を図りながら、新たな歴史を刻む白雲小・中学校

## 「全力を尽くす」

都城市立山田中学校 松下 幸政

「何していいか、分かん！」「何が分かんかが、分かん！」3月末に、前任の教頭先生から受けた引き継ぎ後の感想である。そこから、はや半年。校長先生をはじめ、先生方に支えられ、今を過ごしている。感謝である。PTA総会に始まり、学校運営協議会、民生児童委員と語る会、地域ボランティア、親子愛校作業、体育大会……と行事を重ねるたびに、保護者や地域とのつながりを強く感じ、いつも生徒、学校に愛情を注いでくださる温かい眼差しに、これまた感謝の連続である。

さて、山田中学校には「山田中真心宣言」というものがあり、週の初めに全校生徒が唱和している。「一人ひとりが、真心をもって生活できる山田中」をめざす決意の表れである。教頭として、この宣言のフレーズがピッタリくる。朝の会で行われる全校生徒唱和で、今日も背筋が伸びる。微力ではあるが、山田中の生徒、職員、そして地域のために「全力を尽くす」覚悟である。

Confidence ～一人一人が自分の花を咲かせ、輝こう。やるぞ！山田！～

## 「幸せと感謝」

小林市立幸ヶ丘小学校 野元 健一

「幸せな学校」というイメージをもって4月幸ヶ丘小学校に赴任した。生駒高原の麓にある校舎。校長先生から、「今年はみんなが幸せに」というお話のもと、本年度がスタートした。新型コロナウイルスが収まりつつある中で、多くの行事が復活してきた。何よりも地域と子どもと家庭、そして学校が一体となって取り組んでいく姿に、大変さとコロナ前の活動のありがたさを感じ、教頭として活動することの嬉しさ・喜びを感じている。今年度もあと半年。教諭時代から常に思っている『常に何事にも「ありがたい」と感じ、感謝すること。人と人とのつながりを大切にすること。』この気持ちをいつも忘れることなく、楽しく明るく、そして元気に仕事をしていきたい。

幸ヶ丘小11名の児童、保護者、地域住民、同僚職員とともに「幸せな学校」を一步ずつ、一步ずつつくっていききたい。

「幸せ」いっぱい みんなの学校 伝統の「幸ヶ丘太鼓」を自信と誇りに！

## 「地域の期待に応える学校」

小林市立須木小学校 浦本 光輝

小林市の北部に位置し、周囲を山に囲まれた人口約1400人の須木地区に、3000人ほどの人が集まり、盛大に開催された「すき納涼花火大会」。須木中学校の運動場がメイン会場で、近くを流れる本庄川の河川敷から約3000発の花火が頭上に打ち上る迫力は、圧巻である。この須木地区の一大イベントに、須木小学校全校児童は、「須木っ子ソーラン」を披露したり、会場を彩る紙灯籠を作成したり、花火大会後にゴミ拾いをしたりと様々な取り組みで、盛り上げる手伝いをしている。こんな元気のある須木地区ではあるが、今年度、本校の児童は40名と年々児童数は減少を続けているため、今後も須木小学校を存続させていきたいという地域の方の熱い思いが、この半年、小学校の教頭として地域の方とかかわってきたあらゆる場面でひしひしと伝わってきている。地域の方からこんなにも愛されている学校の教頭として、地域を愛する子どもたちを育て、地域の期待に応える学校のキーパーソンとしてこれからも日々尽力していく所存である。

やればできる！ できるまでやる！ パワーアップ須木小！

## 「原点回帰」

小林市立三松中学校 明松 伸浩

15年ぶりの学校での勤務。初任校を含め3校、お世話になった小林市に再び赴任する機会をいただいた。胸の高鳴りとともにこれから始まる久しぶりの学校での勤務にどこか落ち着かない気持ちを抱えながら、本校の門をくぐったあの日のことを8ヶ月過ぎた今でも鮮明に覚えている。

赴任してから3ヶ月が勝負と決め、様々な「気づき」を記録に残した。学校の「今」を、この機会ですら鮮度の高い状態で私自身捉えることはできないと思い、思いつくままペンを執った。

学校は素晴らしいところだ。登校してくれる子どもたち、子どもたちの背中を後押ししてくださる保護者、いつも温かく見守ってくださる地域の方々、そして、子どもたちの成長という素敵な時間を共に分かち合える仲間がいる。巡り会いの不思議に感謝である。

世阿弥の「花鏡」に、「時々の初心忘るべからず」の言葉がある。教師としての基本を教えてくださいました小林市への恩返し、「原点回帰」の気持ちで、今日も元気に出勤する。

【三松魂】 学ぶ三松 鍛える三松 思いやりと誇りをもつ三松

## 「宮崎市から延岡市へ 中学校から小学校へ」

延岡市立港小学校 川野幸三

新規採用からこれまで、教師生活の大半を宮崎市で過ごしてきた。異動をするならこれまで縁のなかった場所に行ってみたいと考えていた。延岡市へは、部活動の大会や練習試合でしか訪れたことがなかった。場所が変わるとこれほどシステムが違うものなのかととまどいながらも、4月からこれまでとても新鮮な気持ちで過ごすことができている。

中学校の教師として30年勤めてきたが、現在は小学校に勤務している。義務教育の入口の部分で小学校の先生方はこれほど苦勞されているのかと痛感している。ここでも、これまでとの違いにとまどうことばかりだが、生徒を児童、数学を算数、体育大会を運動会と言うことに少しずつ慣れてきた。理科専科の授業を受け持つなど、この年齢になっても新しいことに挑戦できる環境に感謝している。

今後も、延岡市の小学校の教頭として努力していく決意である。

地域のよさ(誇) 一人一人のよさと可能性(夢) 礼儀正しさ(心)

## 「変えることを怖れない、疑問に思うことを変えていく」

日向市立美々津小学校 橋本憲二

教育界は、子ども基本法の成立により、子どもをまんなかに据えた教育を行うべきという教育の原点を回帰させた。人権・同和教育推進教員を務めた5年間で、その必然性を痛感してきた。子どものエンジェンシーを高めていくこと、その背景にある家庭をしっかりとみていくこと。児童減少が進む中で、まちづくりや活性化の活動の中で、「伝統」「昔からそうになっている」という言葉が飛び交う。歴史を読み直すと「？」が付くことがある。常に「慣習？風習？」と投げかける。それが今の時代に合う人づくりなのだろうか。さて、我々の組織はどうだろうか。「慣例」「通例」で昭和の教育観や設立当時の社会情勢を理解せずに継続していないだろうか。それは、会員の意思なのだろうか。子ども達を取り巻く現状の改善につながっているのだろうか。管理職、そして教師として、変えることを怖れず、疑問をそのままにしない。自分自身そのためにも多角的・多様な学びを進める。

本校のスローガン「笑顔があふれ 心豊かな 美々津小」

## 「つながり」

日向市立坪谷小学校 黒木英子

新任教頭として赴任し七ヶ月。「早」七ヶ月ではなく、「まだ」七ヶ月しか経っていないと思うほど、密度の濃い充実した七ヶ月だった。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類となり、保護者、地域との懇親会等が復活した。校長先生をはじめ先生方に随分と助けていただきながら、令和元年度のデータまで遡り、計画案を作成していく。不明な点は、保護者や地域の方に何度も尋ねた。ありがたいことに、みんな快く対応してくださった。その過程で、坪谷小学校のこれまでの歩みや地域との関わりを確認することができた。保護者や地域の方の顔を覚えて親しく話ができるようにもなった。教頭の4、5月は忙しいが、様々な「ひと・もの・こと」との「つながり」のために必要なことだった。教頭の仕事にやりがいを感じているのは、助けてくださった周りの人のおかげ。感謝し、更に「つながり」を広げ、学校と地域をつなぐパイプ役としても貢献していきたい。

歌人・若山牧水の母校という誇りをもち、一人一人が主役となるつぼやっ子

## 「日向灘を見て思う」

日向市立平岩小中学校（中学部） 蜷 川 隆 文

平岩小中学校は、日向市南部に位置すると海に近い学校です。窓の開閉で校舎を回ると、北校舎からはお倉ヶ浜海岸が、南校舎からは金ヶ浜海岸が望めます。朝日が大海原を金色に染める光景に活力をいただいて1日がスタートします。それは子どもたちからも自慢のロケーションだと教わりました。その立地条件や自治体のサポート体制も手伝って、児童生徒の中には、全国からの移住者が多く在籍しています。一方、伝統的な神楽や郷土芸能を代々受け継いでいる由緒ある土地柄でもあります。そのようないわばハイブリッドな地域で、私が教頭として何ができるか。何のために私がこの学校に赴任したのか。その意味を今日も考えながら半年が過ぎました。これまで諸先輩方から教えていただいたことや自身の経験を基に、迷ったら『今、児童生徒にとっての一番は何なのか』と考えて日々邁進していきたいと思います。

三力一心（さんりきいっしん）学力・気力・体力・誠心

## 「一意奮闘」

椎葉村立尾向小学校 高 橋 公 一

上椎葉から、さらに車で30分ほど奥に位置する尾向地区は、まさに秘境中の秘境である。そびえ立つ山々に囲まれた尾向小学校を初めて目にしたとき、なぜか凛とした印象を受けた。学校のすぐ横を流れる清らかな尾前川、見える範囲の空の隅々まで星が輝く夜空、豊かな自然とはまさにこれだと、心から感動が湧きあがった。このような素晴らしい環境の中、地域住民の温かい眼差しに見守られながら、20名の尾向小児童は、実に伸び伸びと元気よく育っている。家族や親せき、年齢に関係なく「〇〇さん」と親しみを込めて名前呼び合う様子は、とても心温まる光景である。

そんな尾向小に教頭として赴任し半年がたつが、ここに来てからは、自分をゆっくり振り返る暇もなく、全力疾走で走り抜けるような毎日である。児童や保護者、地域の方々、学校運営を必死に支えてくれている職員の力になるために、昨日の自分を少しでも超えていきたい。

あいさつ一番！ 笑顔も一番！ 素直さ一番！ 地域みんなのアイドル尾向っ子

## 「見守られて育つ松尾っ子」

椎葉村立松尾小学校 難 波 江 利 幸

日向市から美郷町、諸塚村を抜け、椎葉村に入って最初の学校が全校児童23名の松尾小です。へき地ゆえに、学校と保護者、地域との関係はとても密接です。1年生を含め、子どもたち全員がソフトボール少年団かバレーボール少年団のどちらかに所属しており、学校生活だけでなく放課後、休日の子どもの生活に、多くの保護者、地域の方が関わっています。まさしく地域に見守られて育つという感じです。それゆえ、一人一人の子どもたちが浴びる大人の眼差しはとても多く、とても熱く、その思いを子どもと一緒に受けとめる教頭の責任の大きさを日々、感じています。

この執筆を機に、教務主任としての経験を数えてみると13年でした。きっと教務経験の長い新任教頭でしょう。教頭になって半年、まだ前任の教頭先生の足跡を辿っている感じですが、これまでの経験を、今の職務に生かせるよう努めていきたいと思っています。

We Love Matsuoの□ゴTシャツ、まるで制服のよう

## 「ご縁に感謝しながら」

日之影町立高巢野小学校 樋口幸浩

学校からのぞむ山々が赤や黄色に衣替えをした。本校に赴任してもう半年。何もかもが手探りの中、バタバタと駆け足で過ごしてきた。

高巢野小学校は日之影町の国道218号線沿いにあり、児童数29名の準へき地校である。恵まれたことに、私の出身地が隣町の高千穂町であり、日之影町でも25年ほど前に講師として勤務した。ありがたいことに、親となった教え子、お世話になった保護者や地域の方々と、久しぶりの再会ができた。また、私の高校時代の同級生や親、兄弟の知人もたくさんこの地域に住んでいる。教頭職1年目、こんなに心強いことはなく、感謝の気持ちで一杯になった。たくさんの人とご縁がつながることが、教師の幸せの1つだと思っているが、よりいっそう心から感じる事ができた。

この町に赴任できたこのご縁に感謝しながら、子どもたちの笑顔のために、精一杯、恩返しをしていきたい。

「自立」「貢献」 笑顔でチャレンジ！高巢野小！

## 「上野プライド」

高千穂町立上野中学校 神尊佳輝

本校は、県の北西部に位置し、上野川の両岸にほぼ長方形に広がる上野地区の中央商店街の中央大地にあります。学校区は、南部の高千穂小学校区と北部の田原小学校区に接し、上野川の両岸に沿って散在する6地区から成り立ち、児童・生徒の通学距離は8km未満です。

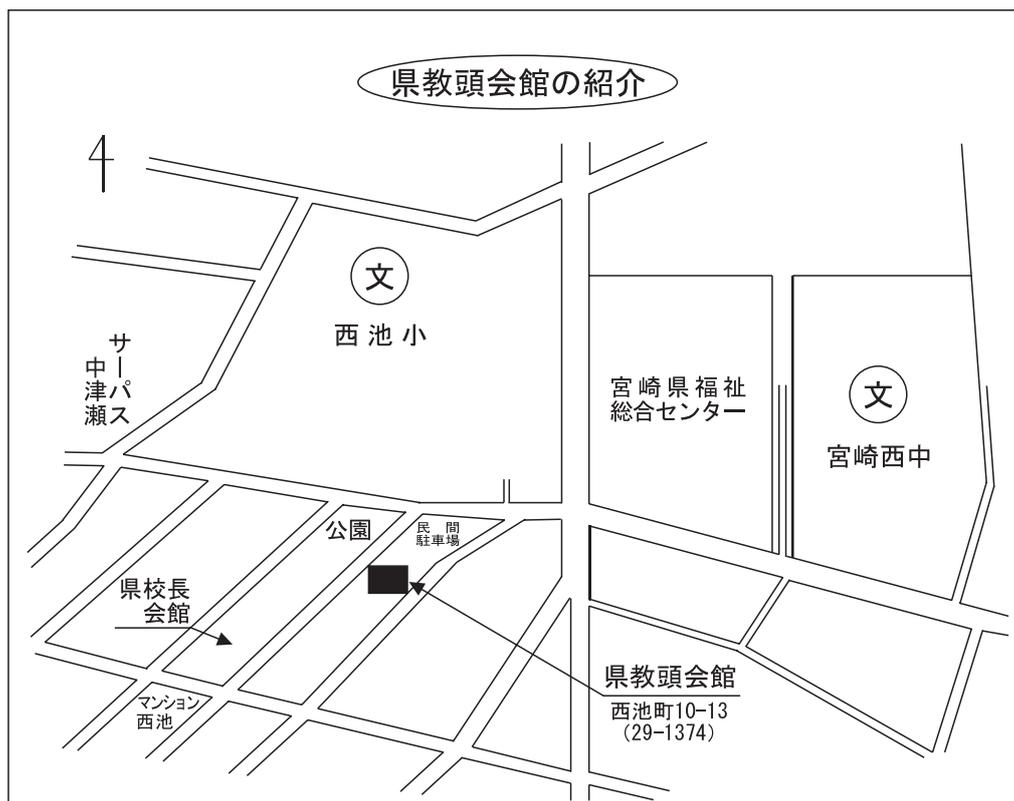
保護者の職業は、農林業が半数を占め、米を中心として茶、野菜、椎茸などを栽培しており、育牛も盛んです。地域の方々の愛校心はきわめて高く、PTA活動などに大変積極的です。

地域には棒術や人形浄瑠璃、上野臼太鼓踊りなどの伝統芸能や春祭り、地藏祭り、夜神楽など伝統的な年中行事が数多く残っており、地域の指導者の協力により伝統芸能を学校行事でも披露したり、地区の祭りに参加したり、伝統芸能継承に力を入れています。

本校に通う児童・生徒一人ひとりの瞳は澄み渡り、明るく素直で勤労意欲に富み、小中合同行事を通して、伝統文化を尊重し、協力してよりよい校風を築く態度が身に付いています。

このように、素直な子どもたち、保護者・地域の方々との「出逢い」に深く感謝しています。

自分に誇りを、共に誇りを、そして学校・地域に誇りを



## 編集後記

11月に入り、例年になく寒暖差の激しい気候となったり、インフルエンザの流行が早まったりと、コロナ禍が過ぎても各学校で児童・生徒への体調面や感染症対策等への対応に追われる日々をお過ごしのこととお察いたします。この冊子が完成し、各学校の教頭先生方のお手元に届くころには、さらに寒さが増していることでしょう。

さて、各学校では9月以降、運動会・体育大会や文化発表会・合唱コンクール等、多くの学校行事が行われたことと思います。本校でも教育課程に沿って各行事を実施しましたが、コロナ禍以前の従来の実施形態で行うのか、感染症対策や人数制限はどうするのかなど、全職員で何度も議論しながら何とか実施につなぐことができました。

この行事については、各学校で大きく実施形態が変化したことと思いますが、教頭職にある私たちにとって、コロナ禍で簡易化されたままの実施でよいのか、行事の目標は達成されるのか、児童・生徒の達成感・充実感につながるものになるのかなど、改めて考えさせられたり悩まされたりした機会であったとも考えます。働き方改革推進の観点からも、教頭としてどう向き合っ対応していくべきか、今後も各支会の中でも情報共有していきながら教頭の責務を果たすことができばうれしく思います。

今回、各支会広報担当の先生方の協力を得て、無事に第145号が完成しました。先生方の随想を拝読させていただき、新任教頭としてそれぞれの新任地でのご苦労や思いがひしひしと伝わってきました。教頭になり数年が経過しましたが、初心に戻り、児童・生徒及び保護者や地域のために尽力していかなければならないと改めて考えさせられました。

最後になりましたが、ご多用な時期に執筆していただきました先生方に心から感謝申し上げます。全会員の皆様にとって、多忙な日々がこれからも続くとは思いますが、お体を大切に、有意義な年末年始・冬季休業となりますようご祈念いたします。

令和5年11月

宮崎県公立小中学校教頭会 広報部



MVPA